

## 「日本語学習支援者養成プログラム(基礎編)」修了 (接合科学研究所・日本語日本文化教育センター連携企画)

勝又 美穂子<sup>1</sup>、植原 邦佳<sup>2</sup>

<sup>1</sup>広域アジアものづくり技術・人材高度化拠点形成事業 国際人材育成部門 特任准教授(常勤)

<sup>2</sup>技術職員(常勤)

本学、日本語日本文化教育センター（日日センター）と接合科学研究所の連携により、「日本語学習支援者養成プログラム(基礎編)」を本年5月より開始し、8月5日に修了しました。本プログラムは当研究所の留学生や海外研究者の受け入れ、対応等の基盤強化を目指すもので、そこにおける言語・コミュニケーションの課題に対応すべく日日センターにて新たにコースを開発頂いたものです。同プログラムは当研究所の教職員、技術部職員、学生を対象にし、留学生・外国人研究者（日本語学習者）の日本語能力向上の手助けができる、或いは、日本語学習者との日本語によるコミュニケーションを容易に解し、より良いコミュニケーションへ導ける人材の育成に取り組むものです。当初より、日日センターでは留学前の理系人材向け日本語学習コースの開発に取り組まれていましたが、その過程で理系研究室における日本語利用状況や研究活動の様子などを調査された際、当研究所技術職員への聞き取りを通じ、滞在する留学生や海外研究者とのコミュニケーション等の課題が発掘されたことがプログラム構築のきっかけとなりました。英語を共通語とした研究活動の実施やコミュニケーションが推進されることは大前提とした上で、滞在国の言語を少しでも解し、コミュニケーションを取ることは「気持ちの交流」、「所属意識の醸成」、「安心感や居心地の改善」、「人間関係の構築」等の面で必須であると言えます。これらは結果として、研究モチベーションの向上、学びの加速等につながる重要な点であり、当研究所としても日本語学習の重要性に改めて着目したものです。

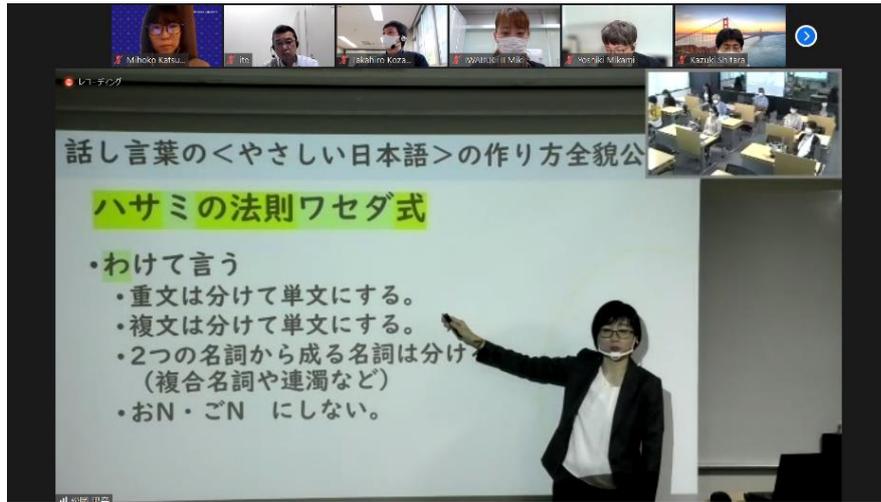
「日本語学習支援者養成プログラム」は日日センターが開発する、留学前の海外学生を対象とした「理系向け VOD 日本語学習コース」と対になる位置づけであり、海外学生・研究者が理系 VOD 日本語学習コースで学ぶと同時に、当研究所の教員、事務職員、技術部職員、学生が日本語学習支援者養成プログラムで学ぶことにより、互いに歩み寄ることを目標としています。プログラムは全3クールで構成され、各クールは4回の授業で構成されました。

5月から開始された同プログラムには当研究所教職員及び学生を含む22名が参加しました。日日センター松岡里奈特任助教によるビデオ講義とライブ講義（対面とオンラインのハイブリッド）を織り交ぜた学習を繰り返し、各クール最後に行われるライブ講義では活発な協議や意見交換が行われました。「やさしい」日本語、日本語学習者と接する際の態度、異文化理解、言語習得の各過程等、日本語学習の視野に留まらず広い視点からの学びとなりました。これらは当研究所が海外との連携を一層活発化し有意義な研究活動を実施するための基盤強化に対し、重要な示唆を多く含むものでした。学習者からは、5月以降、既に意識の変化があり、業務で実践できているというコメントも多数出ています。

今回は基礎編でしたが、今後は更なるトレーニングを目指した実践編等への展開も望まれます。

本学における理系部局と日日センターとの連携による同様の取り組みは今回が初めての試みであり、本学の強みを最大限活かした新たな活動として今後の継続的な展開が強く期待されます。

(次ページに写真掲載)



第1クール ハイブリッド型ワークショップ

上：講義する松岡先生 下：各対面授業とオンラインで参加する参加者



まとめ：主な学習文型	
1 わたしは～です。	9 Vてください。/Vかた
2 これは～です。	10 同期型オンライン授業
3 ここは～です。/~にいます。	11 Vて、Vてください。
4 ~はいつですか。	12 Vています。/Vまでに
5 同期型オンライン授業	13 Vてもいいです。
6 NをVます。/~で/~から	14 Vないてください。
7 Vませんか。/Vましょう。/~まで/Nがありますか。	15 同期型オンライン授業
8 Vました。/Nがありません。	

第3クール ハイブリッド型ワークショップ

左：講義する松岡先生と参加者 上：オンライン参加者の様子